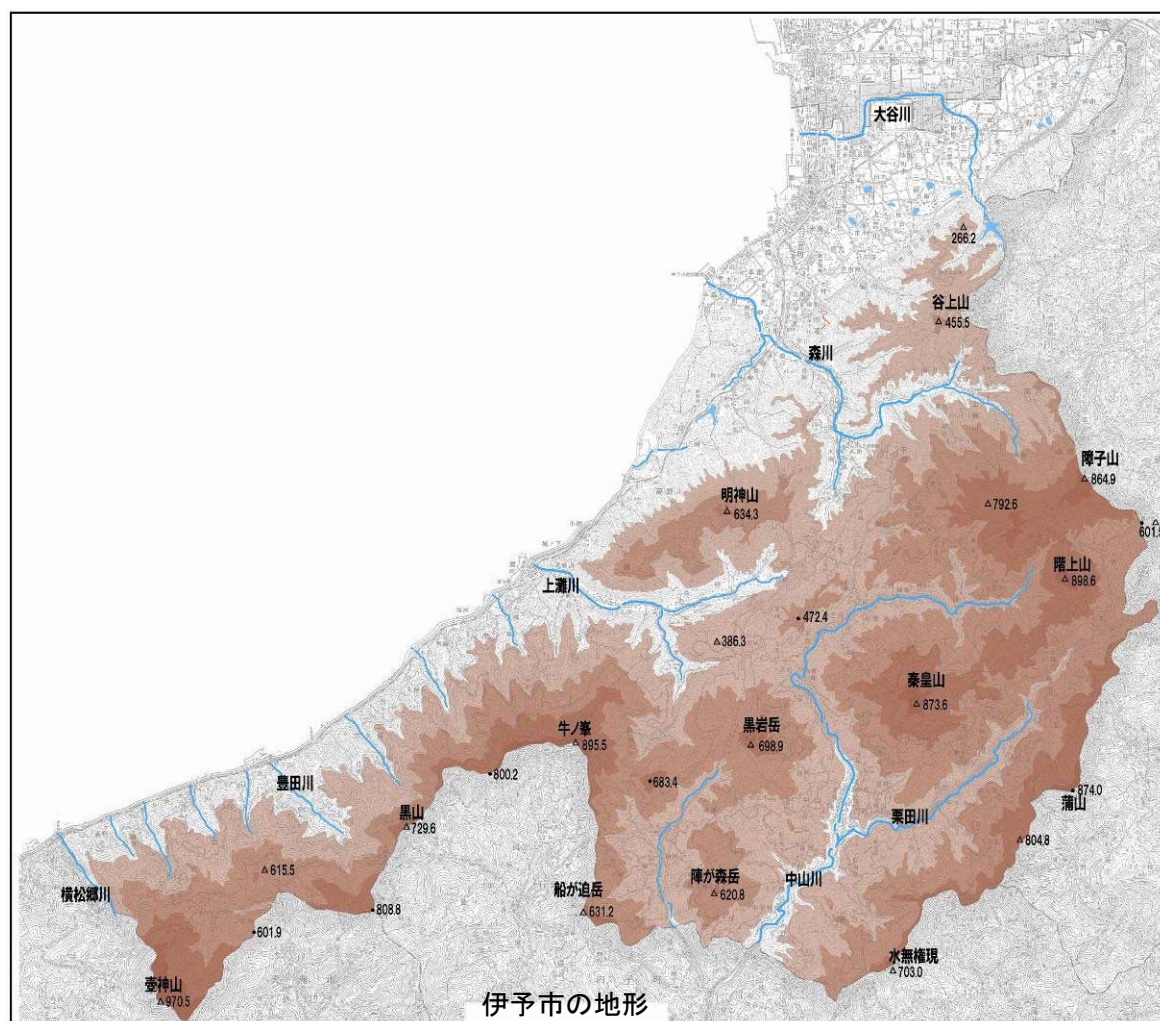


2. 地域と景観の現状

2.1 伊予市の現状

<地形>

- ・伊予市は、旧伊予市、旧中山町、旧双海町が合併してできた市であり、それぞれが特徴的な地形を有しています。
- ・旧伊予市は、前山と呼ばれている行道山（標高 403m）谷上山（標高 456m）などが位置し、山麓部は大谷川や八反地川などにより形成された「タカミ」と古くから呼ばれている扇状地が発達し、さらにそれに続く沖積平野は「ヒラチ」と呼ばれていました。
- ・旧中山町は、出石山系に属し、低地が少なく周囲は階上山（標高 899m）秦皇山（標高 874m）などの比較的高い山々に囲まれて、山地性の盆地を形成し、町の中央を中山川（肱川水系）が流れ、栗田川を合わせて内子町に入り肱川に合流します。
- ・旧双海町は、伊予灘に沿って北東から南西にかけて、明神山（標高 634m）、牛ノ峯（標高 896m）壺神山（標高 971m）が連なっており、これらの山系から上灘川をはじめとして、豊田川など約 20 の小河川が伊予灘に流れています。



＜土地利用＞

- ・市域の約 70%を山地が占め、山麓は果樹園（柑橘園やビワ園、栗園など）に利用され、山麓から続く扇状地や沖積平野、河川沿いの平坦部や段丘台地は水田・畑などの利用が行われています。
- ・市街地は郡中を中心に周辺の米湊や下吾川に広がり、工場地が市街地周辺及び伊予港などに点在しています。旧中山町では、中心市街地が大洲街道の宿場町であった泉町をはじめ中山川をはさんで左岸側（出淵地区）にひろがり、商店や農協、小中学校、高校、市役所の支所などの施設が立地しています。旧双海町は、上灘町を中心として海岸沿いに高野川、小網、高岸などの集落が点在して、双海地区の中心市街地は上灘町において形成されており、大洲藩時代から地域の拠点となっています。
- ・谷上山などの前山の山麓から続く扇状地はため池が多く、旧伊予市誌によれば 143 ヶ所のため池が記載されており、多くのため池は江戸時代に築造されているが、立場谷池は昭和 11 年、大谷池は、着工してから 14 年の歳月を経て昭和 20 年に竣工し、伊予八景にも選ばれています。

＜法規制＞

- ・旧伊予市の行道山、谷上山などの山系から北側の地域が都市計画区域となっており、旧伊予市の灘町、湊町、米湊、下吾川などの地域が市街化区域に指定されています。
- ・旧伊予市の沖積平野の水田や扇状地の水田などにまわって農用地指定が行われており、山麓部の果樹園等にも農用地指定が行われています。
- ・伊豫岡八幡宮及び八幡宮隣接の八幡池周辺が風致地区に指定され、谷上山一帯が皿ヶ嶺県立自然公園に指定されています。
- ・また、その他に都市公園として伊予総合公園（しおさい公園）をはじめ、谷上山公園、五色浜公園、本郡塩田公園などがあり、色々な場所で土砂流出防備保安林、土砂崩壊防備保安林、魚つき保安林などの保安林指定が行われています。

＜文化財＞

- ・旧伊予市の平野部は県内でも早く開けた地域であることから、文化遺産が多く、県指定史跡・伊豫岡古墳や藩主加藤家の祈願所であった稲荷神社楼門などがあり、港には、郡中の起源の一つでもある萬安港の灯台（市指定文化財）があります。
- ・地質学上第 3 紀に属する粘土質岩が露出し、断崖となっている森の大谷海岸で発見された古代植物の化石で県天然記念物となっている扶桑木（メタセコイヤ、トガサワラなどの埋もれ木―古代植物の遺体）などがあり、メタセコイヤは伊予市の木となっています。
- ・旧中山町には永木神社の石鳥居遺構は破損しているが、残存する柱銘文により、中世では資料の少ない当地方の状況を知る手がかりとなっており、県指定文化財と県指定天然記念物である盛景寺のボダイジュは県内最古のものとされていて、旧双海町の高野川神社

のオガタマノキも県指定天然記念物となっています。

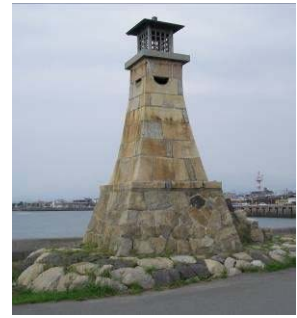
- ・その他にも市域には数多くの市指定文化財（天然記念物）や有形文化財が見られます。



伊豫岡八幡神社・古墳群（社叢）



稲成神社・楼門



萬安港・旧灯台

＜観光資源＞

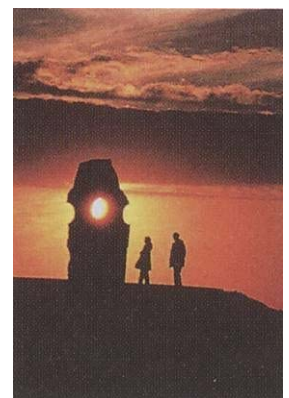
- ・伊予市は山と海の両方の観光資源に恵まれており、旧伊予市では五色浜や五色浜海水浴場、皿ヶ嶺連峰県立自然公園の一角を占める谷上山があります。旧中山町の秦皇山森林公園は伊予灘まで眺望など 360 度のパノラマが楽しめます。また旧双海町は「しずむ夕日が立ちどまるまち」とし、「夕日」をテーマにした交流事業による観光の集客を図っており、「（日本の夕陽百選）拠点施設として道の駅にもなっている「ふたみシーサイド公園」があります。国道 378 号は隣接の長浜町区間と合わせた 30km 区間を「夕やけこやけライン」の愛称のもとに、海辺の花街道としてイメージアップを図っており、伊予の花街道として閩住の菜の花や水仙などが人気となっています。
- ・伊予市中心市街地活性化策の一環として建設された交流施設「町家」を核とした郡中の町並み散策や厚生年金施設を引き継いだウェルピア伊予や旧中山町では、特産品の「栗」を核とした観光が行われており、花の森ホテルや遊栗館、フラワーハウスなどが整備されている栗の里公園が中心施設となっています。



五色姫海滨公園



花の森ホテル・遊栗館



ふたみシーサイド公園

＜上位計画における景観施策＞

伊予市は、「第1次伊予市総合計画」を平成19年2月に策定し、キーワードを「自立・共生・協働・交流」とし、市の将来像を

「ひと・まち・自然が会う郷（くに）」

～自主を目指す多様な地域が交流し共生するふるさと～

と定めています。その中で景観に関連する項目として下記のようなものがあります。

生活環境の整備

海運・宿場町等から発展してきた歴史を感じさせる景観と調和したまちなみ整備や、美しい農山漁村の風景を活かしたまちなみ整備、市民主導の花と緑のまちづくり運動等を促進し、地域資源を活かした特色あるふるさと景観の形成に努める。（中略）更には清掃ボランティア団体の育成・支援の推進等に努めることにより、ソフト面も含めたクリーンなまちづくりを進める。

特色あるふるさと景観の形成

伊予市の緑豊かな山並み等の景観を守るため、森林の保全・整備を進めるとともに、瀬戸内海の優れた景観を守るため、自然海岸の保全・整備を推進する。併せて、伝統的な建築物を保全・活用し、歴史・文化を尊重した潤いのあるまちづくりを推進するために、景観に対する市民の意識を高め、市民や企業との協働による魅力と特色のある地域景観づくりの具体化に向け、景観行政団体として景観計画の策定を進める。

住宅建設の促進

都市計画事業の見直しにより、市街化区域においては、まちづくり事業と連携し老朽化住宅の改築、更には地区の景観等に配慮した住宅建設を促進するとともに、まちなか居住に向けた施策を推進する。

環境の保全

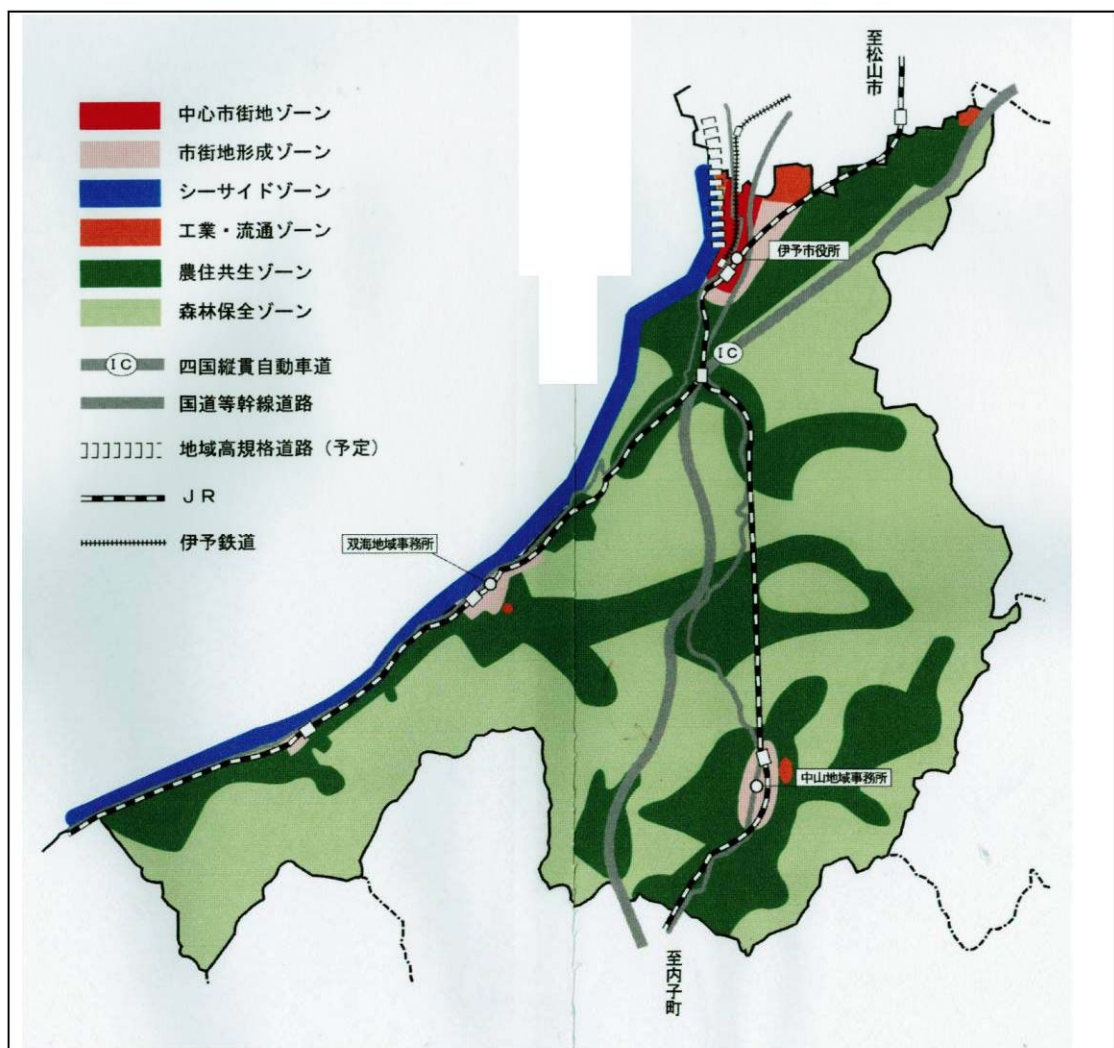
（前略）自然海浜、河川の護岸、荒廃した森林など危機に瀕している自然環境の保全・再生を進め、全域にメダカが泳ぎ、ホタルが飛び交うような自然豊かなまちづくりに努める。（後略）

賑わいの拠点づくり

伊予地域の商店街に点在する伝統的建造物を活かした賑わいづくりのため、まちなみ整備のルールに基づく建物の改修等を制度化するとともに、象徴的存在である宮内邸付近に、歴史の拠点を整備する。

観光の振興

伊予市では、海あり、山ありと調和のとれた自然豊かな環境を活かして広い範囲での観光行政を考えることができるため、観光客の行動範囲の広がりに応じた観光整備、観光宣伝などに努める。また、地域資源を活かしながら、グリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムの振興を図り、土地に触れ、自然に親しむ参加・体験型の観光地への発展に努める。さらに、観光施設案内の充実と受入れ体制の確立を行い、農林水産物の直販施設や道の駅、各観光交流拠点などの整備、市内の観光資源をネットワーク化させ、滞在型観光地化や観光のオールシーズン化、リピート化の促進に努める。



出典「第一次伊予市総合計画」

伊予市土地利用構想図

2.2 景観の現状（景観資源等）

＜建築物および市街地の状況＞

旧伊予市

- ・ 灘町及び湊町には、大洲藩時代から栄えた宮内家の住宅をはじめ、山惣商店、濱田屋などの昔の町家が残っており、同じような景観を有する民家も多数見られます。
- ・ 上記のように昔の面影を残す灘町、湊町であるが、一方、マンションやホテルなどの高層建築の存在や看板などにより、昔の景観が偲ばれる建物前面が遮蔽されている建物も存在します。
- ・ 集落では、扇状地の傾斜に対応した石積み擁壁が特徴的な景観となっている上野本村のような集落が見られるとともに、旧庄屋の立派な建物が点在しています。
- ・ 個々の建築物では、明治 27 年（1894）に郡中町の有志が資金を拠出して建てた洋風トラス組の彩浜館や灘町の裏通りに点在する倉庫や民家、ヤマキの昔の事務所、工作物としての萬安港灯台など特徴的な景観を有する建築物が見られます。
- ・ また、新しく町並みを意識して建てられた建物として伊予市駅前の手づくり交流広場「町家」や駅前交番、伊予五色姫郵便局などがあります。その他の景観に留意した建物として、福田寺などがあります。



彩浜館



五色姫郵便局



交流広場「町家」



福田寺



灘町・商店街



灘町・民家



灘町・倉庫



上野本村集落

旧中山町

- ・旧中山町は大洲街道の宿場町として栄え、泉町の一部に昔の面影を残す建物（酒屋）などが見受けられるが、旧伊予市の灘町、湊町ほどの規模ではありません。
- ・景観的には新しく作られた花の森ホテルや遊栗館、中山幸梅園などの建物や遊栗館へのアプローチとなっている橋が特徴的な景観となっています。
- ・国道沿いの沿道サービス施設（クラフトの里やなかやま特産品センターなど）が規模の大きい建物で景観的に目につく施設となっているとともに、近年建てられた公共施設の中にも、個別の建物としては意匠に留意した建物、例えば、伊予消防署中山出張所や中山幼稚園などがあります。



花の森ホテル・遊栗館



中山幸梅園



遊栗館へのアプローチ・橋



クラフトの里



伊予消防署中山出張所



中山幼稚園

旧双海町

- ・旧双海町の上灘は大洲藩の在町として栄え、明治期になっても晒蟻の産地として活況を呈していたことから、当時の面影を偲ぶ建物が点在しています。
- ・旧双海町役場（現双海地域事務所）は、景観的に特徴的な建物で地域のランドマーク的な役割を担っています。
- ・国道 378 号沿いには入母屋の民家が点在しているが、中でも小網地区は慶長年間に漁業従事者が集落を形成しはじめ、狭い急斜面に民家が密集する漁村集落景観となっています。
- ・上灘の翠小学校は昭和 7 年（1932）に建てられ、木造校舎としては県内最古と言われており、赤い屋根と中央 2 階に突き出た校長室や幅広い廊下が特徴です。
- ・その他の景観に留意した建物として、下灘駅、鉄道橋（串地区）、牛の峯地藏尊の石葺屋根などがあります。



R378 国道休憩所（高岸）



道路沿いの民家



小網集落



上灘・旧庄屋



翠小学校



双海地域事務所



下灘駅



鉄道橋（串地区）

<樹林・樹木の状況>

旧伊予市

- ・伊豫岡八幡神社をはじめ埜中神社など社寺林が景観的に目立つ樹林地となっています。
（社寺林は敷地規模に大小があるが、年月を経ていることから樹高が高く、また地域の自然植生に近いクスノキ、アラカシ、ヤマモモ、クロガネモチ、ヤブニッケイなどの常緑樹が多く見られます。）
- ・五色浜公園や街路樹、伊予農業高校や伊予小学校など公共施設に付随する樹林、樹木が多く存在しています。
- ・扇状地台地では、溜池と一体となった樹林があり、水と一体となった良好な景観要素となっています。
- ・民有空地と思われる場所にもまとまった樹林が存在するとともに、工場緑化による線状の緑地が臨海部で見受けられます。
- ・ウェルピア伊予の外周緑地は平坦部にあって量感のある緑となっています。



伊予農業高校



五色浜公園



埜中神社



米湊大池



工場緑化



ウェルピア伊予

旧中山町

- ・三嶋神社や川崎神社などの社叢が良好な樹林地となっており、樹高の高い樹木が多く存在しています。
- ・中山小学校や中山高校など教育施設に目立つ樹木が存在しています。また、中山町の調べでは巨木が多く存在し、周辺山地に埋没して景観的に目立たないものの中にはあるが、前述のように神社の社叢は比較的視野に入る緑となっています。



川崎神社



中山小学校

旧双海町

- ・三島神社の社叢や高野川神社のオガタマノキなど重要な樹林・樹木があるが、周辺山地の緑に埋没しています。
- ・また、国道 378 号沿いのサクラ並木や JR 沿いの菜の花が、花見シーズンなどは樹高は低いが見え入る良好な緑の景観となっています。
- ・翠小学校や由並小学校など、校庭に大きな樹木があります。



翠小学校



J R沿いの菜の花

<伊予八景>

・旧伊予市は伊予市八景として下記のような景観を選定しています。



谷上山



大谷池と森林公園



三秋の大池と明神山



伊豫岡八幡神社



鵜の崎峠と障子山



森の海岸としおさい公園



五色浜



稻荷神社と西権現山



森の海岸としおさい公園

<景観保全・育成に係わる活動状況>

景観保全・育成に係わる活動として、下記のような取り組みが行われています。

伊予市中心市街地：湊町地区まちなみ協定（灘町も同様）

- ・伊予市中心市街地活性化基本計画は、計画コンセプトの一つを「歴史を活かした市の顔となる地区」とし、その具体策を「ＪＲ伊予市駅周辺の整備及び内港周辺の景観形成、湊町・灘町通りの歴史的な建物を活かしたまちなみの形成により、市の顔にふさわしい地区を形成する。」としており、中心市街地活性化基本計画を受けて伊予商工会議所は2001年3月、「伊予市TMO構想」を策定し、第三セクターによるまちづくり会社「株式会社まちづくり郡中」を設立、TMO（Town Management Organization）事業の一つとして「類まれな町家のまち」の再生策を実施。具体的には「アンケート調査、ワークショップ等による実態把握（市）」「街の交流拠点「町家」の整備（市）・運営（「まちづくり郡中」）」「湊町地区まちなみ協定（土地所有者及び借地権者）」などを行っています。
- ・湊町地区まちなみ協定（案）は、「伝統的町家を保存、修景、活用するとともに、当地区が全体として郡中地区の歴史にふさわしいまちなみを形成するよう、住環境（建築物及びその敷地）の整備・改善を図るため、基本的な考え方と手続きを定めること」を目的とし、「郡中地区のまちなみ形成指針」（案）を策定し、“外壁位置”（壁面後退）“構造”（木造が望ましい）“高さ”（2階建てが望ましい）“屋根”（日本瓦を基本とする）など9項目について取り扱い方針を定めています。



新築中及び数年前にリフォームされた建物



新築された新聞社

市民による花のある景観づくりや祭り

- ・伊予市の各地区では既存の資源を利用した祭りや新たに花を植えるなどの景観づくりを各地で行っています。（以下はその一例）
- ・伊予地区ひまわりプロジェクトの一環として下吾川地区には遊休農地を利用したひまわり畑が3か所あり、下吾川第1地区住民と伊予農高生が植栽を行い、環境保全や景観美に取り組む、地域住民との新たな交流の場となっている。またウェルピア

伊予で、伊予地区ひまわりプロジェクト連絡協議会主催の『ひまわり祭』が開催。

- ・自分たちの住むまちを花でいっぱいにと年間を通じて活動している“ふたみ花の会”によるふたみシーサイド公園での『初春水仙花祭り』、双海町閨住地区の『菜の花まつり』や下灘駅にノジギク苗を植える活動、中山町漆地区では、棚田の梅の木を活用した『棚田の里 漆の梅まつり』を開催。また上三谷原のコスモス畑で、『コスモスまつり』が開催。
- ・南山崎小学校は、校区の方々に昔から親しまれているイチョウの木をシンボルツリーとして、地域を愛する思いを持ってもらいたいという願いを込めて、鮮やかに色づいたイチョウをライトアップ。

市民による清掃活動

- ・毎年、海の日『クリーン伊予運動』が実施され、海岸や公園などで一斉清掃が行われており、約 6000 人の市民が参加し、約 40 トンのごみが集められています。
- ・新川なぎさ会では、毎月清掃活動が実施されており、下灘漁協では漁協女性部を中心に年間 5 回程度の海岸清掃を行っています。

市民による地域の特徴的な自然景観・夕焼けを活用した活動

- ・ふたみシーサイド公園における『恋人の聖地でオレンジデー』で、夕やけ空に地元小学生が廃油から手づくりした約 2000 個のキャンドルを浮かべる。夕陽を背景にした下灘駅の「夕焼けプラットホームコンサート」など地域の特徴的な景観資源である“夕焼けを”活用したイベントなど地域の活性化策が行われています。
- ・中山地区では、昭和 61 年に伊予中山ホタル保存会が発足し、ホタルだけでなく小動物も生きていける環境保全を目指して、河川の環境保全運動や自然を守る啓発活動を行っています。



クリーン伊予運動



オレンジデー



ホタルの放流
イチョウのライトアップ

2.3 景観の現状（景観類型）

<景観類型>

伊予市は道後平野の一端に位置し、伊予灘に面していることや山地が地域の多くを占めていること、さらには古くから大洲藩の中心地と栄えてきたことから、豊かな自然環境に働きかけてきた人々の生活・産業から形作られた様々な景観が見られるが、おおむね下記のような景観に類型化することができます。

市街地景観

旧大洲街道沿い（灘町、湊町）の昔からの商店や銀行、マンションなどが混在する景観及び、JR 伊予駅周辺から伊予鉄道郡中駅に至る県道沿いの密集した市街地景観。また、パチンコ店、本屋などの郊外型店舗やガソリンスタンドなどが立地、国道 56 号沿いに立地する郊外型店舗により形成される景観。



県道沿い市街地

田園集落景観

田園景観の中の集落は遠景としての構成要素であるが、集落景観における集落は個々の建物が有する形態によるまとまり感が大切で、瓦屋根や板塀、土塀など落ち着いた色調のヒューマンスケールなたたずまい。

山間集落景観

山合いの谷筋平坦部に細長く形成された集落で、町の規模はあまり大きくない。また集落内は細い旧道が通り、並行して集落外を通るバイパス道路が位置する。



中山町中心地

海岸集落景観

道路に沿って細長く張り付いた集落景観で、上灘地区や下灘地区の中心集落はその規模が大きい。



国道 378 号沿い民家



国道 378 号沿い民家

工場・倉庫景観

市街地内に位置する工場は古くから立地していることから、建物外壁が公道に面し、大きな景観要素となっている。工場団地として整備されたところは工場緑化が行われるなどまとまった景観となっている。



市街地内工場



工場団地

平野田園景観

目の前に水田（畑）が広がり、遠景に集落が点現するのどかな景観。



平野部に広がる農地、点在する集落、神社の社叢

扇状地田園景観

昔の人々が「タカミ」と呼んでいた扇状地に位置する緩やかな傾斜地の段々状の水田・畑景観で、伊予灘方向への眺望が開けている。



伊予灘へ眺望が広がる景観、集落が点在

山地景観

市の大部分を占める、遠景として景観を構成する山地。

港湾景観

突堤で外海と隔てられた穏やかな内湾（港）で、漁船などが係留されている。船溜まりに係留された漁船の雑多な雰囲気と静かに広がる海面。



森漁港

海浜景観

砂浜と前面の海による広がり感のある明るい景観。



五色姫海浜公園

シンボル夕日景観

ふたみシーサイド公園を代表とする国道沿いが、夕日を眺められるシンボリックな景観となっている。



下灘駅からの夕日

海岸・花街道景観

伊予灘に開けた明るい海沿いの景観であり、山や集落が迫った視点場としての国道378号と一体となった景観で、国道から眺める移動方向の景観が主となる。



国道378号沿い・休憩緑地



国道378号沿い・JR法面
(菜の花による修景)



国道378号・桜並木

海岸斜面景観

海岸段丘上に形成された棚田で海への展望と一体となった景観が特徴的。海岸斜面（海岸段丘の1段背後の斜面に多く見られる）に段々状に形成された果樹（かんきつ）を主とした景観。

段丘上の水田や斜面
の段々畑（果樹園）



中小河川景観

一目で川の両岸が視野に入る川幅のせまい河川景観であるが、河床や護岸、沿川の土地利用により景観は多様な表情となっている。

